

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1997. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 159

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 埼玉県支部についてのQ & A

## 第4回

今までは総論的なところを話してきましたので、今回からは各論的なところに話を移します。まずはこの『しらこぼと』ができるまでについて、質問にお答えしました。

『しらこぼと』を作っているのは、どういう人たちですか。

支部の組織の中で、「編集部」というのがあります。そこでボランティア活動をしている会員たちが作っています。

メンバーは、山部直喜部長をはじめ、海老原美夫・工藤洋三・小荷田行男・小林みどり・桜庭勇・内藤義雄・藤原寛治・森本國夫らを中心に、多くの会員たちが手伝っています。特に選ばれた人たちではありません。やりたい人たちが集まっているだけです。興味がある方は、編集会議のある日（連絡帳欄に記載されています）の午後、支部事務局を覗いてみてください。

具体的には、どういう作り方をしているのですか。

『しらこぼと』の各ページを、それぞれのメンバーが担当しています。

表紙の写真は、主に海老原美夫が担当しています。写真コンクールが中断してからは、適当な作品を集めるのに苦労していますが、最近はビデオプリントで少し息をついています。

2～3ページは、特集記事。山部直喜編集部長が担当していますが、時々編集会議目前になっても適当な原稿がなくて、あわてていることもあります。山部編集長の得意なセリフは、「自転車操業というのは、せいぜい左右に倒れるだけ。我が編集部は、前後にも倒れるかも知れない輪車操業!!」。そんなこと言って笑っている場合じゃないでしょうに。

特集記事の原稿、あるいはアイデアの段階

でもいいですから、山部編集長の方に送っていただけませんか。きっと一生感謝すると思います。

4～5ページは、各部のページと地鳴きコーナー。役員会や研究部、記録委員会からの報告がある時は4ページに掲載して、その他のスペースが地鳴きコーナーになります。担当者は、山部編集長を中心に、ともかくその時に手が空いている人。

「地鳴きコーナー」は、会員の投書の場合です。かつては、会員の主張的な投書は「さえぎりコーナー」、その他は「地鳴きコーナー」と分けていたのですが、最近はおっぱら「地鳴き」ばかりになってしまいました

6～7ページは、「野鳥情報」。藤原寛治が担当しています。支部事務局のノートに貼りつけられた情報をコピーして行き、自宅でワープロをたたき、編集会議の日持参したり、FAX送稿したりします。

最近野鳥情報が少なくて苦労したり、あるいは野鳥情報欄の書き方を工夫したりしていることは、ご存じのとおりです。

8～9ページは、「行事案内」。内藤義雄が担当しています。普及部の方から回ってくる探鳥会予定表と、各探鳥会担当のメインリーダーから送られてくる原稿を整理し、時にはなかなか送ってこないリーダーに手をやいたりしながら、少しの間違いで影響の大きいページですから、ひときわ気を使っています。

10～11ページは、「行事報告」。森本國夫が担当しています。探鳥会リーダーから送られてくる報告を整理します。時々ずいぶん古い報告が掲載されることがありますが、これは編集の問題ではなく、担当リーダーの性格が分かるという話もちらほら。

12ページは、「連絡帳」。海老原美夫が担

当しています。事務局を担当している立場から、支部活動の様子を伝えています。

各ページが多くなったり少なくなったりした時の調整は、もちろん編集長の役目です。

もし初めて編集会議に参加したら、どのようなことができますか。

特に担当ページを持たない人は、各ページ担当者が直接来られずにFAX送信してきた原稿を整理し直したり、会員からの投書を整理して原稿用紙に書き直したり、でき上がった原稿をチェックしたりしています。

初めて参加された方も、そういう仕事から始めていただくことが多いと思います。決して、お茶くみ修業からはじまるなんていうことはありませんから、ご安心を。

もしも、編集作業に合わせて、その場で適当なカットを描いてくれる人でも来たら、山部編集長は、泣いて喜び、手を合わせるでしょう。

原稿・写真・カット・野鳥情報などは、どのように送ったら良いのでしょうか。

まず、表紙の写真。できるだけ季節感あふれる写真を探しています。ビデオプリントでもOKですが、最近は特定の人しか送ってくれないのが、悩みの種です。新人大歓迎。原稿は必要ありません。写真プリントならサービスキャビネ(2L)程度の大きさに、20字×10行程度のコメントを添えて、支部事務局に送って下さい。

野鳥ドアップの写真である必要はありません。「野鳥のいる風景」みたいな写真もいいですね。表紙用の写真としてお送り頂いたものを、編集上の都合でカットとして使わせて頂く場合もありますので、お許し下さい。

特集記事については、前にも書いた通り。支部事務局か、山部直喜(341 三郷市彦成3-9-10-1202)宛てに直接お送り下さい。

カット用の写真も常時不足気味です。野鳥

の写真である必要はありません。探鳥会の写真や風景、昆虫の写真など、なんでもOK。サービスサイズでも可。できれば1枚1枚の裏に、キャプションと撮影者の住所氏名などを書いて貼りつけておいてくれると、整理の上で助かります。イラストカットも出来れば同様にしてお送りください。

地鳴きコーナーへの投書は、20字×30行くらいが最も使いやすい分量です。実は、文章の内容よりも、紙面のスペースの都合で原稿の採否が変わってしまう場合もあります。同じことから、お寄せ頂いた原稿を、編集部の方で整理させて頂くこともあります。

いずれも、支部事務局宛てでも、山部宛てでも、どちらでも結構です。

その他にボランティアとして参加できる場所はありますか。

「連絡帳」欄で、「校正の日」というのをご紹介しています。毎月、主に海老原美夫・工藤洋三・桜庭勇の編集部員に、喜多峻次氏らが集まります。これならどなたにでも参加頂けるのではないのでしょうか。「校正の日」の午後1時ころ、支部事務局108号室を覗いてみてください。一番早く『しらこぼと』を読めます。「行事予定」の情報を、誰よりも早くキャッチできます。

時々誤植を見逃すこともあります。そこはそれ、人間のやることです。当然間違いもあります。完全を求めるわけではありませんから、気軽にご参加頂ければ、ありがたいです。

編集作業が終わった後の午後6時か7時ころからは、少々慰労の酒盛りも。これはボランティア活動とは言えないけれども、それに顔を出して、『しらこぼと』の印象について語って頂くのも、編集部員には勉強になります。

この『しらこぼと』。どこかの誰かが作っているわけではなく、皆様の仲間が、毎月力を合わせて作り続けているのです。

(文責・海老原美夫)

## ミミちゃんのワンナイト・ホームステイ 岡安征也（北本市）

4年前に知り合い親交を結んだマレーシアからの留学生ザリナさんが、この3月に大学を卒業して帰国。寂しさを感じていたところ、思いもよらぬ珍客が我が家に泊まることになりました。オオコノハズク!! 夢のような、現実にあったお話。ここに公開するミミちゃんの写真（右）が何よりの証拠です。

4月10日朝、市内に住む知人から電話があり「果樹園の防鳥ネットに引っ掛かった鳥を保護した。相談にのって欲しい」とのこと。約束の場所に行ってみると、電話をくれた当人が喪服で立っていた。野鳥を弔うには少々大げさだと思って聞いてみると、これから法事に行くところだという。案内された横山さん宅には、ダンボール箱の隅で元気なくうずくまるオオコノハズクがいた。

「ぐったりした姿を見た当初は、死んでいると思った。円い大きな目を開けたので、生きていることがわかった」「家に持ち帰り、スポイトで水をやるとびちゃびちゃと音を立てて飲んだので、小さく切った蒲鉾を先につけて水と一緒に嘴のなかに流し込んだ」「ダンボール箱から出て家のなかを歩いた。耳が大きくてかわいいのでミミちゃんと名づけた」「頸をなでてやると気持ち良さそうだった」「夜になって放鳥しようとしたが、飛べなかった」。以上、横山家の人々から伺った話の内容です。ご主人だけは何故かこの件には触れたくないようすだった。奥さんの言うところでは、あの鋭い爪でひっかかれたのが原因らしい。充分納得のいく説明である。

保護診療機関の中村ペット病院に電話をしたところ、先生は一日中不在だという。そこで私が預ることになり、山野に戻すための努力が始まった。トリのササミを目の前で動かしてみても、嘴を開けて給餌しようとしても、頑として受けつけない。野生のプライドか、生きた餌でなければ駄目らしい。

損傷箇所を調べておこうと思いたち、箱を開けて様々な角度からビデオ撮影する（猛禽のためうかつには近寄れない）。彼は隅で眠たそうに薄目を開けている。体長の計測も必



要だ。そう考えて隣の部屋にスケールを取りに行く。その判断が甘かった。部屋に戻ってみると、彼の姿が見あたらない！ 学者がフクロウに襲われ失明した例もある。一瞬背筋が凍る思いがした。すぐ冷静さを取り戻して部屋のなかを見渡してみると、彼は止まり木代わりに電気スタンドの上からこちらをじっと見ていた。互いに胸の内を探り合いながら対峙する。緊張と凝縮の5分間。やっと捕獲できた。翌日、北本自然観察公園で十数人のギャラリーが見まもるなか、鳥仲間の小川さんの手で放鳥に成功。彼は低い直飛で私の頭上をかすめ、林のなかに消えていった。

ウォッという威嚇の声、愛らしくも凛々しい容姿、毅然とした態度…体は小さくても、彼はまさしく、野生の猛禽であった。

## 三宅島探鳥会

兼次忠雄（和光市）

はじめての三宅島。早朝、上陸した頃から次第に雨は強くなって大路池に着いた頃にはドシャ降り。我慢して探鳥を続ける内にやっと小止みになった。

大路池に下る坂道で聞く小鳥達の声はまさにシャワーといった感じ。中でもコマドリの声はひときわ美しい。アカコッコは姿もすぐに見せてくれたが、コマドリは現れず、初日は残念。先輩達は長太郎池のメリケンキアシギに夢中。岩礁の上でおとなしくしていて、充分観察出来た。

翌朝、自由時間に長谷部さんに案内して頂いた。コマドリが赤い可愛い姿を小道に現したのをバッチリ観察。初めての姿に大感激。

三宅島はほんとうに鳥と緑の島。道路をア

カッココが行ったり来たり、ウグイスがそばで鳴いたり、宿の前でイソヒヨドリが出迎えたり。そして小鳥達の声の元気なこと。

宿も家庭的で、料理も海の幸一杯。皆さんから沢山の情報も聞けて、大満足な探鳥会でした。

近頃とっても楽しいのです

岩崎すみ (新座市)

「何か、いいことあったの？」

と義母が言います。

「いや、別に…」

と返事をしましたが、近頃とっても楽しいのです。バード・ウォッチングを始めて半年程ですが、すっかり鳥にのめり込んでしまいました。

三室を中心に、子供2人と参加しておりますが、リーダーの方々がとても親切に下さるので、探鳥会の日が待ち遠しく、いつのまにか、生活の活力になってしまいました。

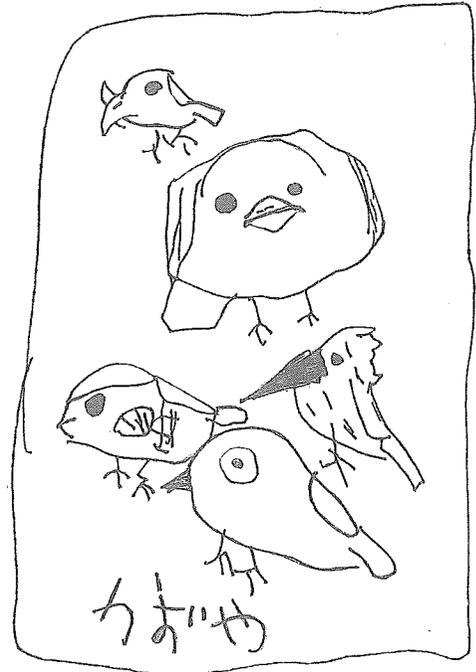
探鳥会に出かける朝、「ちょっと今月は行き過ぎたかな？」なんて思うのですが、集合場所に到着して、先週の他の探鳥会でお会いしたリーダーの方をお見うけすると、何かほっとしてしまいます。

あれもこれもと知りたい事だらけで、あの鳥もこの鳥も見たいし、教えて頂きたいのです。リーダーの方々、これからもよろしくお願ひします。

1997年夏「鳥の目から環境を調べよう！」  
調査はがき回答のお願い

研究部

調査はがきを同封しました。5月10日から7月10日までの間、自宅から半径50m以内で観察された鳥を記入してご回答下さる様、お願い申し上げます。なお、本調査はその性格上、ドバトなどいわゆる籠ぬけの種も記入下さい。



(岩崎かずや)



今月もできた!! (手前編集部・奥研究部)



オドリコソウ

岩槻市の岩槻公園 ◇3月17日、池周りの植込みでルリビタキ2羽。4月14日にも声を聞く(芳川伸一・リリィ)。◇4月16日、ツミの若鳥1羽。高い木の先の方にとまり、さかんに鳴いていた(中村榮男)。  
 浦和市秋ヶ瀬 ◇3月17日、野鳥の森でアカゲラ1羽。ヒヨドリがこぶしの花芽を集団でついでついで。子供の森でヒレンジャク2羽。31日にも2~4羽。4月21日、野鳥の森でシロハラ1羽。腐った落ち葉をくちばしで散らかしてミミズらしきものをついでついで(芳川伸一・リリィ)。◇4月13日、大久保農耕地でホオアカ♂♀各1羽(佐久間博文)。◇4月18日、B区でムナグロ226羽、ツリスガラ2羽。A区でムナグロ9羽(細井要)。◇4月29日、ピクニックの森でミゾゴイ1羽、コムドリ5羽(島田恵司・沙織里)。同日、同地でコサメビタキ1羽(佐久間博文他8名)。◇5月3日、シラコバト3羽以上(三原省三)。  
 所沢市山口 ◇3月18日、ウグイス初鳴き。4月9日、アオジさえずる(小林茂・ますみ)。21日、イカル2羽。その後も毎日のように確認。「良い声ねー」と聞こえる(小林ますみ)。  
 越谷市北越谷駅 ◇3月20日、ツバメ1羽(秋間利夫)。  
 大宮市日進1丁目 ◇3月21日、シロハラ2羽、キクイタダキ1羽以上、ヒガラ2羽以

上、ヤマガラ多数。25日、ビンズイ3羽。4月11日、ビンズイ1羽。14日、センダイムシクイ1羽、アオジのさえずり(ここで聞いたのは初めて)、カケス1羽。24日、ビンズイ3羽。25日、センダイムシクイ1羽、アオジ1羽以上、オオルリ♂1羽(当地初出現)。朝見つけた場所に昼休み行ってみるとまだ居て、30分ばかり見ていた。最も近い時は5m位の距離から見られた。30日、アカハラ1羽。5月1日、アカハラ2羽(森本國夫)。

岩槻市の慈恩寺沼付近 ◇3月30日、オオタカ1羽。斜面林から舞い上がり、沼上空をしばらく旋回(芳川伸一・リリィ)。  
 志木市の柳瀬川、高橋~栄橋間 ◇3月30日、ヨシガモ♂1羽(中村治)。  
 東松山市東平 ◇4月1日、ツバメ1羽。今期初認(中村豊己)。  
 東松山市大谷 ◇4月2日、オオタカ2羽(中村豊己)。

戸田市道満の彩湖 ◇4月4日、コミミズク2羽。10日、ハジロカイツブリ夏羽1羽。26日、チュウシャクシギ1羽、オオヨシキリ1羽初認。29日、キアシシギ1羽(高橋達也)。

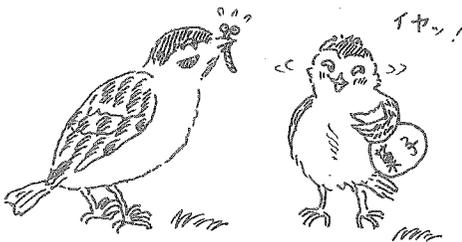
所沢市荒幡の「生き物ふれあいの里センター」◇4月9日、アカゲラ1羽、アオゲラ2羽。コジュケイ2羽。1羽は、茶畑の間で砂浴び。オオルリ♂1羽(小林ますみ)。29日、キビタキ♂2羽、シロハラ4羽(小林茂)。5月1日、アカハラ1羽、イカルさえずる。3日、オオヨシキリ1羽(小林ますみ)。4日、センダイムシクイ1羽(小林茂)。6日、オオルリ♂若鳥1羽。9、10、14日にも確認(小林ますみ)。

桶川市若宮 ◇4月9日、イカル1羽(立岩恒久)。

岩槻市の元荒川岩槻橋下流 ◇4月10日、ゴイサギ、ダイサギ、コサギが竹に囲まれた藪の中でにぎやかに営巢中。かなりの数がいるらしい(中村榮男)。

深作川堤添橋下流 ◇4月10日、用水路でホオアカ1羽(中村榮男)。

深谷市の仙元山 ◇4月12日、オオタカ1



(押川歳子)

羽、ハイタカ1羽。4月13日、アトリ♂1羽♀2羽。♂は頭が真黒で完全な夏羽。4月20日、カワセミ1羽（新井巖）。

戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷 ◇4月16日、ノビタキ1羽。20日、チュウシャクシギ2羽。荒川でコアジサシ2羽初認（高橋達也）。

埼玉古墳公園 ◇4月16日、丸墓山古墳前の桜の木でアオバト♂1羽。順光に緑色がとても美しかった（逸見嶮）。

秩父市の羊山公園 ◇4月14日、クロツグミ。19日、オオルリ。20日、センダイムシクイ。26日、キビタキ（山岸昭治）。

滑川町の森林公園 ◇4月16日、アトリ2羽。ウソのいた桜の木で、散ってしまった花の芯をつついていた。（中村豊己）。

蓮田市の黒浜下沼 ◇4月16日、ノビタキ♂1羽（中村榮男）。

毛呂山町旭台 ◇4月16日、ツミ1羽（黒木昭雄、増尾隆・節子）。

東松山市野田 ◇4月24日、コチドリ2羽（中村豊己）。

幸手市神明内の水田 ◇4月23日、ムナグロ10羽。25日、タヒバリ1羽。5月3日、トウネン1羽（秋間利夫）。

幸手市上扇の釣り堀 ◇4月25日、コアジサシ2羽、タカブシギ1羽（秋間利夫）。

幸手市木立の中川 ◇4月25日、オオヨシキリ1羽、シメ2羽。29日、ハシビロガモ2羽、コムクドリ6羽（秋間利夫）。

浦和市辻 ◇4月26日午前6時20分、自宅ペランダ前の木でセンダイムシクイ1羽。和光院の裏の木と我が家の前を行ったり来たり約1時間（倉林宗太郎）。

上尾市中分水川神社 ◇4月26日午前7時20分、キビタキのさえずりを聞く（立岩恒久）。



バードソン 大麻生にて

桶川市川田谷 ◇4月27日、オオヨシキリ初認（立岩恒久）。

戸田市の戸田公園 ◇4月27日、クロジ♀1羽、カケス4羽（高橋達也）。

幸手市戸島 ◇4月30日、チュウシャクシギ1羽（秋間利夫）。

杉戸町大島新田貯水池 ◇4月30日、ユリカモメ1羽。5月3日、オオバン1羽（秋間利夫）。

吉見町の八丁湖 ◇5月2日、アカハラ1羽、オオヨシキリ今期初認。5月2日、シメ数十羽の群れ。お互いに追いかけて、森は騒然としていた（中村豊己）。

岩槻市の槻ノ森公園 ◇5月2日、コムクドリ21羽（中村榮男）。

坂戸市城山 ◇5月2日、クロツグミ♂1羽 当地初出現。3日、キビタキ♂1羽（増尾隆）。4日、クロジ♂♀各1羽、シロハラ♂1羽（増尾隆・節子）。

幸手市中野の水田 ◇5月3日、キョウジョシギ3羽、キアシシギ3羽、ムナグロ60羽（秋間利夫）。

## 表紙の写真

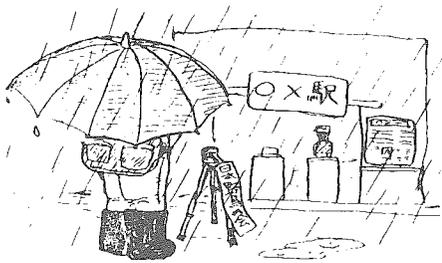
### バン（クイナ科）

ちょっとごちゃごちゃした写真で申し訳ないのですが、よく見て頂くと、カメの上にカメが乗っていて、更にその上にバンが乗っているのかわかると思います。下のカメは左に

首を伸ばし、上のカメは右に首を伸ばして。

バンは10分以上平気で羽づくろいをしていましたが、気がつくといつの間にか両方とも姿を消していました。 蟹瀬武男（浦和市）

# 行事あんない



(渡辺 敦)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

## 上尾市・八枝神社探鳥会 (夕方)

期日：7月5日(土)

詳細は6月号をご覧ください。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月13日(日)

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03発に乗車

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本

見どころ：日毎に暑さが厳しくなってきます。何処の探鳥会も鳥の少ない時期ですが、ここではササゴイ、バン、カイツブリのファミリーなどが見られます。道中は木陰が少なく大変ですが、明戸堰の清流？を見れば少しは涼しくなるかも知れません。防暑対策を十分にしてお出かけください。

## 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月20日(日)

集合：午前9時40分 森林公園南入口前

交通：東武東上線森林公園駅より森林公園南口行き9:28発バスに乘車、終点下車

費用：入園料390円、(子供80円)

担当：佐久間、内藤、藤掛、青山、島田

見どころ：梅雨が明けると、夏の青空がまぶしい季節になります。鳥達も子育てを終えて静かなとき、この時期は蝶、昆

虫、夏の花と幅広くネイチャーウォッチング。もちろんオオムラサキも優美な姿を見せてくれますよ。緑陰の多い公園ですが、やはり暑い！体調をととのえてお出かけください。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：7月20日(日)

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺(周)、手塚、笠原、伊藤、若林、倉林、岡部、兼元、嶋田、森

見どころ：梅雨明けの三室は、風が斜面林やたんぼを吹き抜けていきます。見沼代用水の流れと斜面林をみながら、木陰を歩いてみましょう。遠くカッコウの声が聞こえてきます。芝川にでるとアシの葉陰でバンやカルガモ達が休んでいます。夏の静かな三室です。

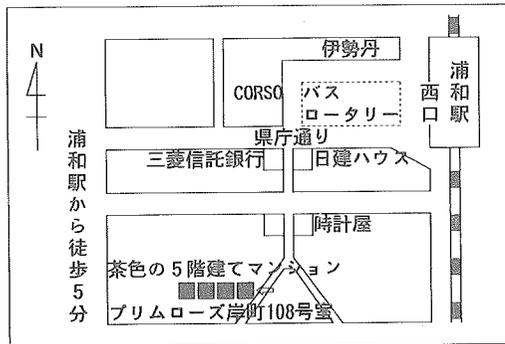
## 『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月26日(土)午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

案内：“蒸熱酷暑を感ず”とはこの時期の屋外で、事務局は別天地高原の涼しさ？暑いさなかにもめげず『しらこぼと』が届くのも涼しさのおかげ、これは冗

談ですが、暑いとき寒いときにも元気な貴方、今月もこの日を参加予定に加えてくれて有難うございます。すっかり頼りにしています。年間の100を超える支部の行事を無事にクリアーできるのも、この会があってのことで、「皆さーん忘れないでくださいね、ポポー」。



**狭山市・入間川定例探鳥会**

期日：7月27日（日）  
 集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口  
 交通：西武新宿線本川越8:42発、または所沢8:36発に乗車  
 担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本、久保田  
 見どころ：梅雨明け十日の好天気！ 暑い夏が大好きな人集まれ！ カワセミやササゴイなどの魚を捕る鳥たちを観察しましょう。河原は日陰が少ないので日除けの帽子をお忘れなく。鳥合わせはいつもの涼しい？ 稲荷山公園です。

◆8月の行事予定  
 8月3日（日）・北本市石戸宿定例探鳥会  
 8月31日（日）・リーダー研修会  
 研修会参加者を募集！ 詳細は来月号で。

●バードソン成績速報●

バードソン事務局から支部事務局に届いた「バードソンNEWS VOL. 4」によれば、6月13日現在の集計で、支部の公式チーム「リブラン・フレッシュしらこぼと」チームは、鳥種数での獲得ポイントは全39チーム中の34位でしたが、募金者数が259人で4位、募金額が458,512円で3位、総合12位の好成績をキープしています。

ただし、これは現在の「募金申込み」に基づく集計であり、「実際におさめられた募金

額」によって順位の変動もあり得ます。どうか最後までよろしくお願いします。

勝山竹司会員をリーダーとする県内のオープンチーム「ケ・セラ・セラ」も、41種を確認する活躍でした。

尚、支援対象の里山を守るNGO団体のひとつとして、県内では「武蔵丘陵森林公園の自然を考える会」(

谷津弘子代表)が選ばれ、バードソン募金からの支援を受けることになりました。

●支部主催以外の行事●

■森林公園自然観察会

主催：武蔵丘陵森林公園の自然を考える会  
 月日：7月31日（木）、9月17日（金）、10月21日（火）  
 集合：東武東上線森林公園駅改札口前午前10時に集合して10時8分発のバスに乗車、又は直接公園南口に10時20分。  
 費用：往復バス代400円、入園料400円、園内バス代120円、参加費100円。  
 雨天決行。弁当・観察用具・雨具持参。午後3時過ぎ解散予定。事前申し込みの必要なし。7月31日（木）はオオムラサキやヤマユリなどを楽しめます。  
 問合せ：TEL・FAX 谷津弘子

■白馬自然観察会「夏」

主催：渡辺浩平（支部会員）  
 日時：7月24日（木）12:00 白馬駅前集合、26日（土）14:30 同所で解散。  
 参加費：2泊4食の宿泊代、送迎車代を含んで18,000円。他にロープウェイ・リフト代が4,000円程度必要です。  
 宿舎：夢の山小屋「にほめの一步」  
 八方尾根・柵池自然園・姫川湿原・宿舎周辺の林道などで、山盛りの高山植物の花々を観察します。（先着25名限り）  
 問合せ申込み：399-93 長野県北安曇郡白馬村北城落倉高原14718「にほめの一步」TEL・FAX 0261-72-4491 渡辺浩平

# 行事報告

10月13日(日) 浦和市 秋ヶ瀬  
参加: 41人 天気: 晴

アマサギ チュウサギ コガモ オナガガモ チョウゲンボウ タシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (21種) ノビタキがよく見られてよかった。アマサギも見られて、ちょっと得をした気分。

(福井恒人)

1月15日(水、休) ガン・カモ類調査  
ボランティア: 21人

石井智、石井幸男、榎本秀和、海老原教子、神場真文、小池一男、駒崎政雄、佐久間博文、島田恵司、高草木泰行、手塚正義、内藤義雄、中村祐子、中村治、福井恒人、福田美紀、藤掛保司、古川功、町田好一郎、森本國夫、柳原正昭

3月9日(日) 坂戸市 高麗川  
参加: 45人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ オオタカ チョウゲンボウ キジバン キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 部分日食で鳥たちはどんな行動をするのかの観察をお願いしてスタート。少々寒さを感じた程度で、鳥たちにはあまり影響はなかったようでした。観察後は、チョウゲンボウのホバリング、オオタカの通過、梅の花が満開の中、ウグイスやヒバリの鳴き声、そしてカワセミ君との出会いがありました。ヤマセミ君は、留守でした。(藤掛保司)

3月16日(日) 浦和市 三室地区  
雨のため中止。

3月20日(木、休) 秩父市 羊山公園  
参加: 46人 天気: 曇

トビ キジ キジバト アオゲラ コゲラ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ キレンジャク ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 昨夏は乾燥していたので山の木の実がこの冬は少ない。そのため、鳥も少ないという地元会員の情報に加え、この冬の鳥たちは早目に移動を始めているようだとのこと。なに、数日前にウソを見た人もいるのだからと、強気で歩き出したが、どうにもこうにも鳥影がうすい。ウソも声が聞こえただけ。ところが最後に逆転ホームラン。キレンジャク20羽前後の群れが乱舞。見事見事で、目が洗われるよう。リーダーは、ちゃんと最後に山場を演出したのだと胸を張りながら、ひそかにほっとしたのです。(海老原美夫)

3月23日(日) 行田市 さきたま古墳公園  
参加: 44人 天気: 曇

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ チョウゲンボウ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 曇で風もあり寒い日であった。予定どおりのコースを歩いたが、鳥種は少なかった。しかし、春らしく、ハクレン、トサミズキ等の花も満開だった。カケス、シメは地上を歩き、チョウゲンボウ2羽が高く舞い。どうやら探鳥会の雰囲気は保てたか。(内藤義雄)

3月23日(日) 狭山市 入間川  
参加: 20人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ キンクロハジロ トビ チョウゲ

ンボウ コジュケイ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス キクイタダキ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (42種) 通常コースの右岸で工事が行われているため、左岸にコースを変更。また、河原の様子が変わられて行く。毎年3月の探鳥会では、イカルチドリやコチドリが賑やかに飛び回っていたのだが、生活不適と見切を付けたのだろうか。肌寒い曇天の下、カタクリの花も閉じたまま頭をたれていた。(長谷部謙二)

3月29日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12人

赤塚義正、荒木恒夫、磯部宏、江浪功、大坂幸男、佐久間博文、篠原東彦、島田恵司、高文子、中村治、藤掛保司、藤野富代

3月30日(日) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 40人 天気: 晴

オシドリ トビ オオタカ ノスリ クマタカ キジ イソシギ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ キクイタダキ エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 天気にも恵まれ、遠方にもかかわらず大勢の参加者があった。スタート地点の大谷川では、オシドリの♂♀を見、キセキレイの美しいさえずりを聞くことができた。滝尾神社の参道でもミソサザイのさえずりを聞き、何羽もの姿も見られた。ハイライトは昼食時のクマタカの出現。ゆっくりとソワリングし、皆さんから歓声が上がった。(中島康夫)

4月6日(日) 浦和市 民家園周辺

雨のため中止。

4月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 47人 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ オナガ

ガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ コチドリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス セッカ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 目玉商品がニュウナイスズメということからか、遠方からの参加者も多かった。コースはおよそ半年ぶりに野鳥の森、荒川河原とした。下見ではニュウナイスズメはおろかタダスズメさえ見当たらなかったが、参加者の念願に応じてか、ポイントでは大きな群れが見られた。また、猛禽類の出現も多く、全員で満足した。(和田康男)

4月13日(日) 浦和市 秋ヶ瀬

参加: 52人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ コジュケイ キジ バン コチドリ ムナグロ チュウシヤクシギ タシギ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) ムナグロ、コチドリはよく見られたが、ノビタキは残念ながら見られなかった。最後にキジやコジュケイが見られた。(福井恒人)

4月20日(日) 浦和市 三室地区

参加: 72人 天気: 晴

カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ ハシビロガモ キジ クイナ バン コチドリ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト ヒメアマツバメ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 2月、3月の例会が雨で中止になったので、リーグは前日から心配だった。しかし、天気快晴でそれだけでうれしい探鳥会であった。参加者も新人が多く、やり甲斐があって、三室特製の黄色のリボンが笑顔と共に風に揺れた。ヒメアマツバメ初出現だったが、メインは大きなキジのテリトリ一争いだった。何回やっても新しい感動が有るものだ。(楠見邦博)

連絡 中長

●諫早湾その後

諫早湾の干潟を救済しようとする運動は、日々新たな動きが報道されています。

5月24日、諫早湾救済本部からFAXが届きました。同本部と同東京事務所が展開する活動などに賛同団体として当支部の名称を連ねさせて貰えないかとの要請でした。緊急を要することでしたので、支部長と2名の副支部長で協議して、6月2日それを承諾することをFAX送信し、合わせて活動資金への寄付として5万円を送金しました。後日になりましたが、このことは、6月15日(日)に開催された支部役員会でも承認されました。

一方、長崎県秘書広報課からは、当支部から送ったFAXに対する返事として、同県農林部諫早湾干拓室長の名前で、干拓の必要性を主張する文書が届きました。内容は、既にマスコミなどで報道されている通りのものでした。

支部事務局に届けられた署名は、まとめて救済本部の方に送りました。

●今年もコニカパッケージエイドをよろしく  
昨年寄せられたコニカフィルムの上ぶたは合計99,866枚。コニカ(株)から1,997,320円が日本野鳥の会に寄付されました。

コニカパッケージエイドによる寄付金はこれまでの10年間で合計15,635,440円。いまやタンチョウサンクチュアリの年間活動経費のおよそ3分の1を占めています。

今年もコニカフィルムの紙箱のふた(ロータスクーポンがついていない側)を切り取って送ると、1枚について20円がタンチョウサンクチュアリの活動資金として野鳥の会に寄付されます。ご協力ください。

送り先: 085-12 北海道阿寒郡鶴居村字中雪裡南、鶴居・伊東タンチョウサンクチュアリ (TEL 0154-64-2620、FAX 0154-64-2239)

●テレビでの広報活動・続き

5月18日(日)の三室地区定例探鳥会にテレビ埼玉「常盤6丁目情報局」の取材スタッフが参加し、探鳥会の様子は5月27日(火)

午後5時からの同番組で放送されました。

●鳥獣保護区等への意見提出

北本市産業振興課から、同市内の鳥獣保護区と銃猟禁止区域の拡大について意見を求められましたので、6月5日付けで賛成する意見書を提出しました。

●ごめんなさいコーナー

前月号の3ページ、表1の中の「コウゾリナ」は「コウゾリナ」、6ページのバードソン確認種のうち、「イカルチドル」は「イカルチドリ」の誤りでした。

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

- 12日(土) 編集会議、研究部会議。
- 19日(土) 校正作業、役員会議。
- 26日(土) 袋づめの会。

●会員数は

6月1日現在2,912人です。

活動報告

5月10日(土) 役員会議(司会:高草木泰行、評議員制度検討委員会の答申に対する支部としての意見・諫早湾問題に対する取り組み・関東ブロック協議会への参加者・総会の準備・その他)。同日 本部事務局で本部の会計を監査(楠見邦博)。

5月20日(火) 税務署の税務調査に対応(事務局)。同日 テレビ埼玉編成局長と打ち合わせ(海老原)。

5月24日(土) 6月号校正(海老原美夫)。

5月30日(金) 県自然保護課で補助金に関する手続き(事務局)。

編集後記

双眼鏡を固定し、接眼レンズにデジタルカメラを押しつけて、アオバズクを撮影してみた。けっこういける。証拠写真やテレビで楽しむ分には十分だ。植物や昆虫も写してみた。OKだ。私の新しいフィールドノートになりそうだが、電池を大変に食うことが欠点だなあ。(山部直喜)

『しらこぼと』1997年7月号(第159号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130  
 印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)